

アフリカの紛争と平和構築

—外大生がアフリカに出会うとき

武内進一

(日本貿易振興機構アジア経済研究所)

お話ししたいこと

- 私がどんな風にアフリカと出会い、アフリカの紛争と平和の問題に関心を持つようになったのか。
- アフリカの紛争をどのように理解すればよいのか。
- 紛争を克服するために、どんな取り組みが行われているのか。

外大時代(1980～86年)

- 1980年 フランス語科入学。怠惰な生活を送る。
- 1982年9月 休学。派遣員として在チュニジア日本国大使館へ。
- 1984年10月 復学。
- 1985年秋 アジア経済研究所に拾われる。

中部アフリカ仏語圏諸国を担当せよ

- 先達なし。とりあえず、一番でかいザイール(現コンゴ民主共和国)について勉強する。
- 人々が「食ってるもの」について調べよう。
- キャッサバの生産、流通、消費

現代のアフリカ国家 (1997年6月現在)



コンゴ共和国、ブラザヴィルに派遣される (1992年10月)

- 1991年 ザイールの首都キンシャサで大暴動
- 「川向い」のブラザヴィルでキャッサバの調査をやる



ブラザヴィルの政情不安、内戦状態

- 政治的民主化の余波

- 1991年 社会主義を放棄
- 1992年8月 大統領選挙
- 3名の有力政治家が権力闘争
- 政党と民兵組織

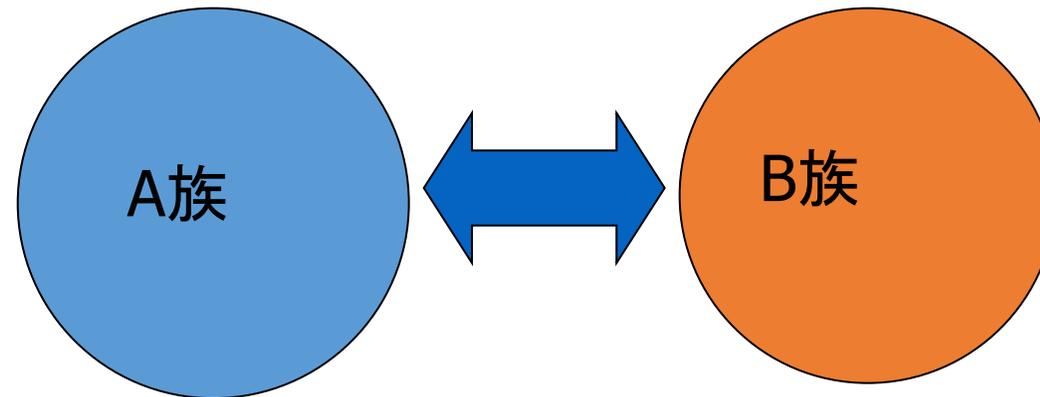
政治家名	出身地	政党	民兵組織	主要部族
リスーバ	中南部	UPADS	ズールー	ベンベ
コレラ	首都近郊	MCDDI	ニンジャ	ラリ
サスー	北部	PCT	コブラ	ンボシ

- 政治家、政党、民兵、部族

- 政治家、政党を支える部族があり、彼らが民兵を提供する。
- この関係には例外も多い。
- 一般の人々は、他政党の支持者や他部族のメンバーに憎しみを持っているわけではない。

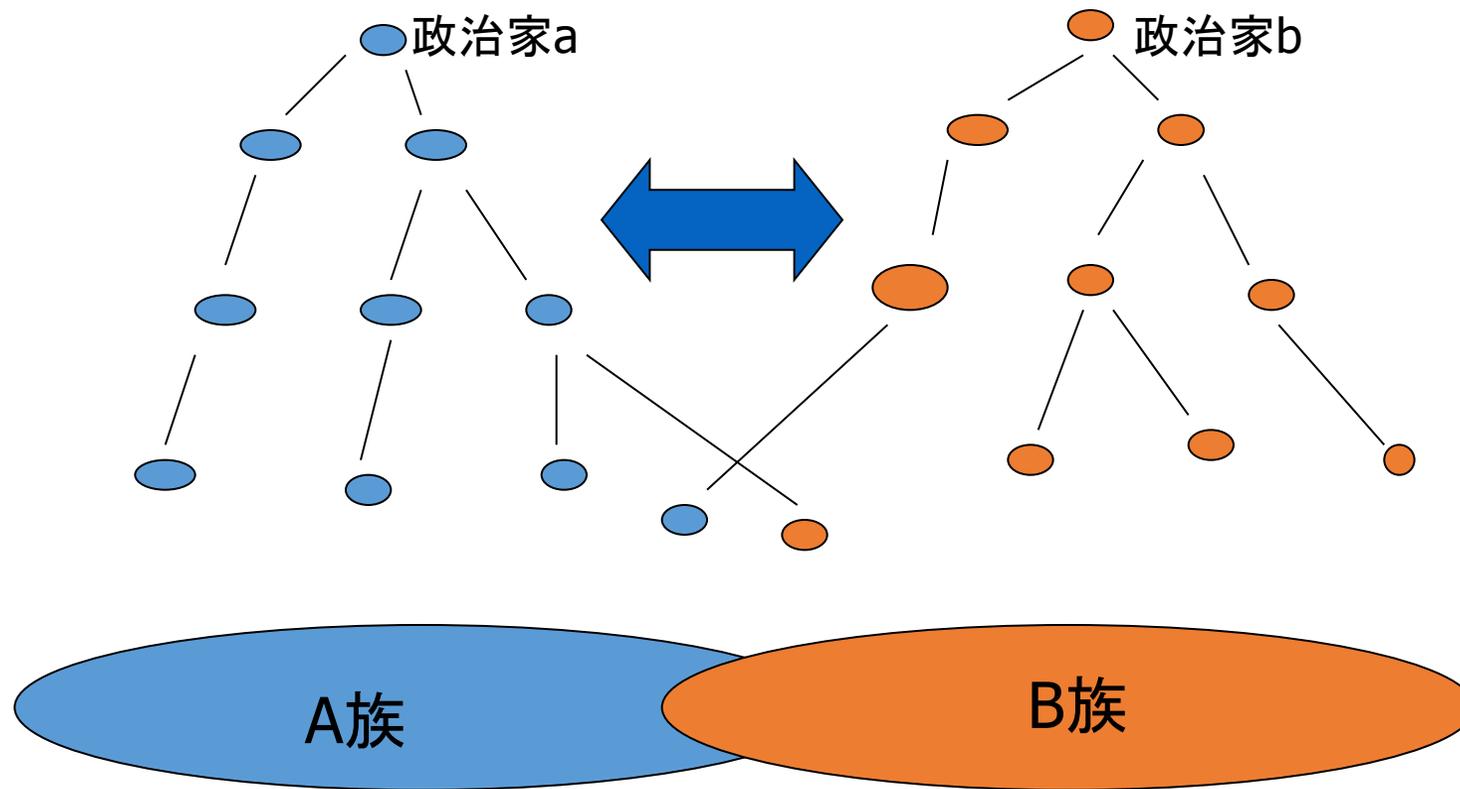


「民族紛争／部族対立」のイメージ1



出所)講師作成

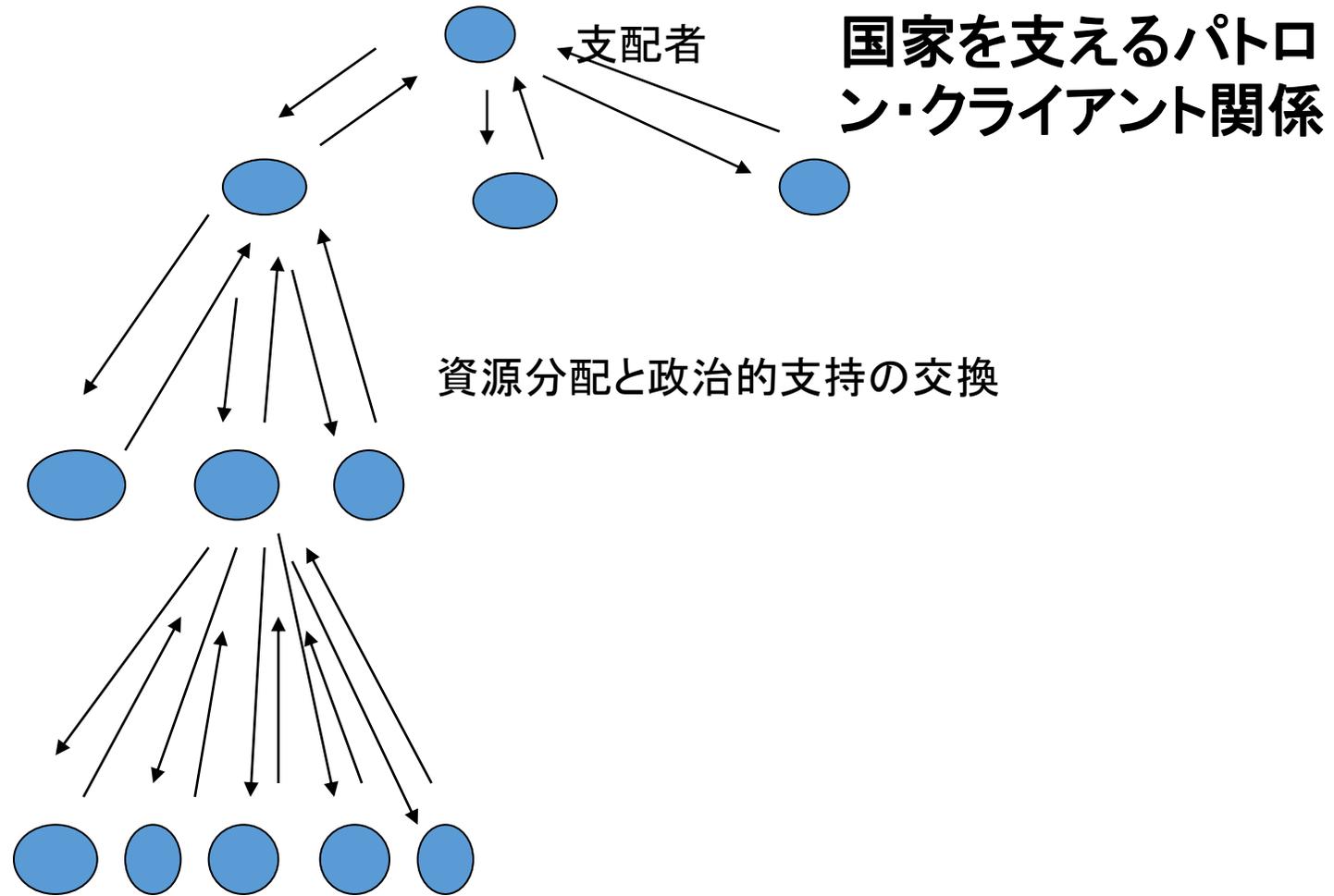
「民族紛争／部族対立」のイメージ2



出所)講師作成

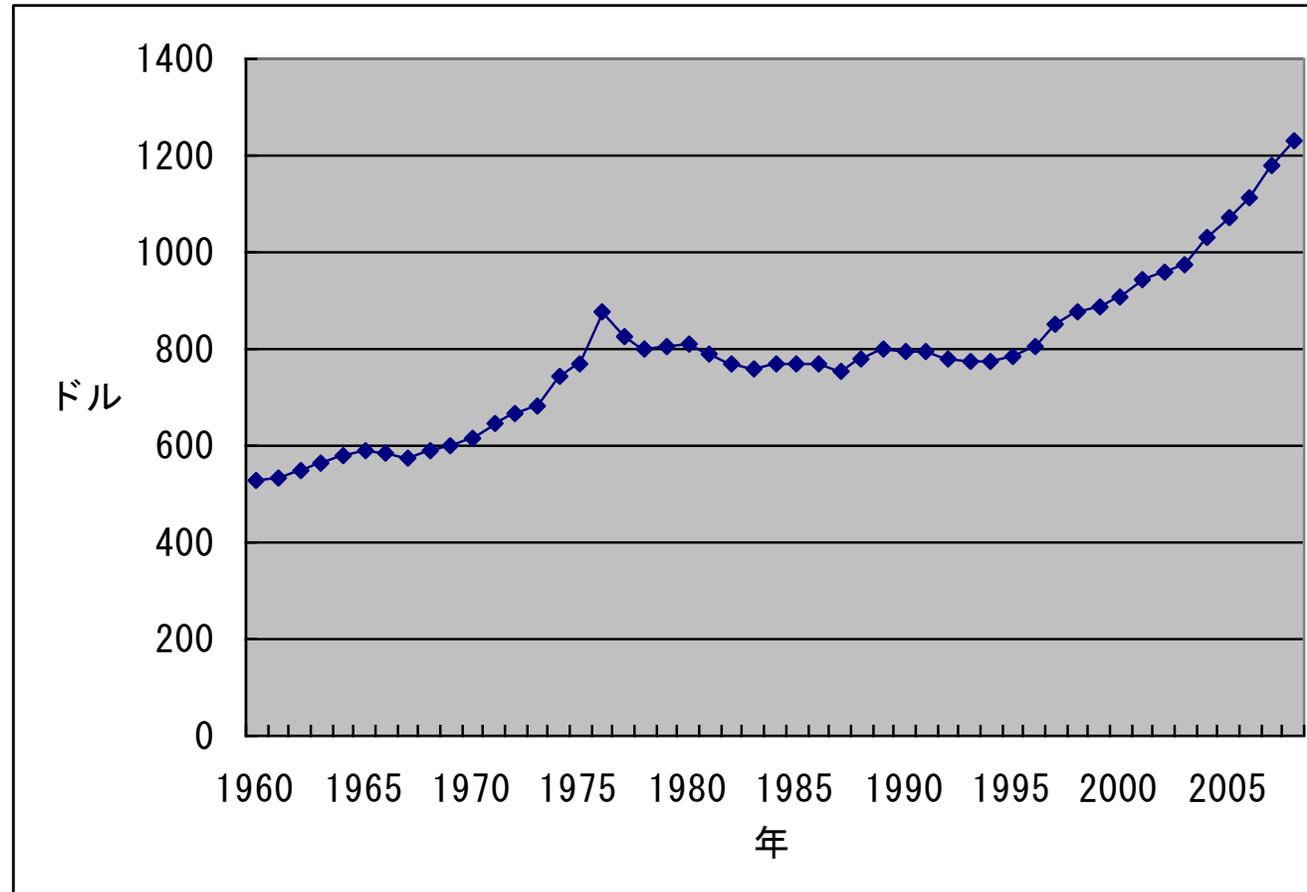
紛争の背景には、国家をめぐる問題がある

- 独立後のアフリカ諸国
 - 多くの国々で指導者による国家の私物化
 - 取り巻きに資源(カネ、ポスト)をばら撒いて政治的支持を確保
 - 指導者を頂点とするパトロン・クライアント関係(親分子分関係)
- こうした政治構造が立ち行かなくなり、紛争に至った
 - 長期的な経済危機(1970年代～)
 - 民主化と権力闘争の激化



(講師作成)

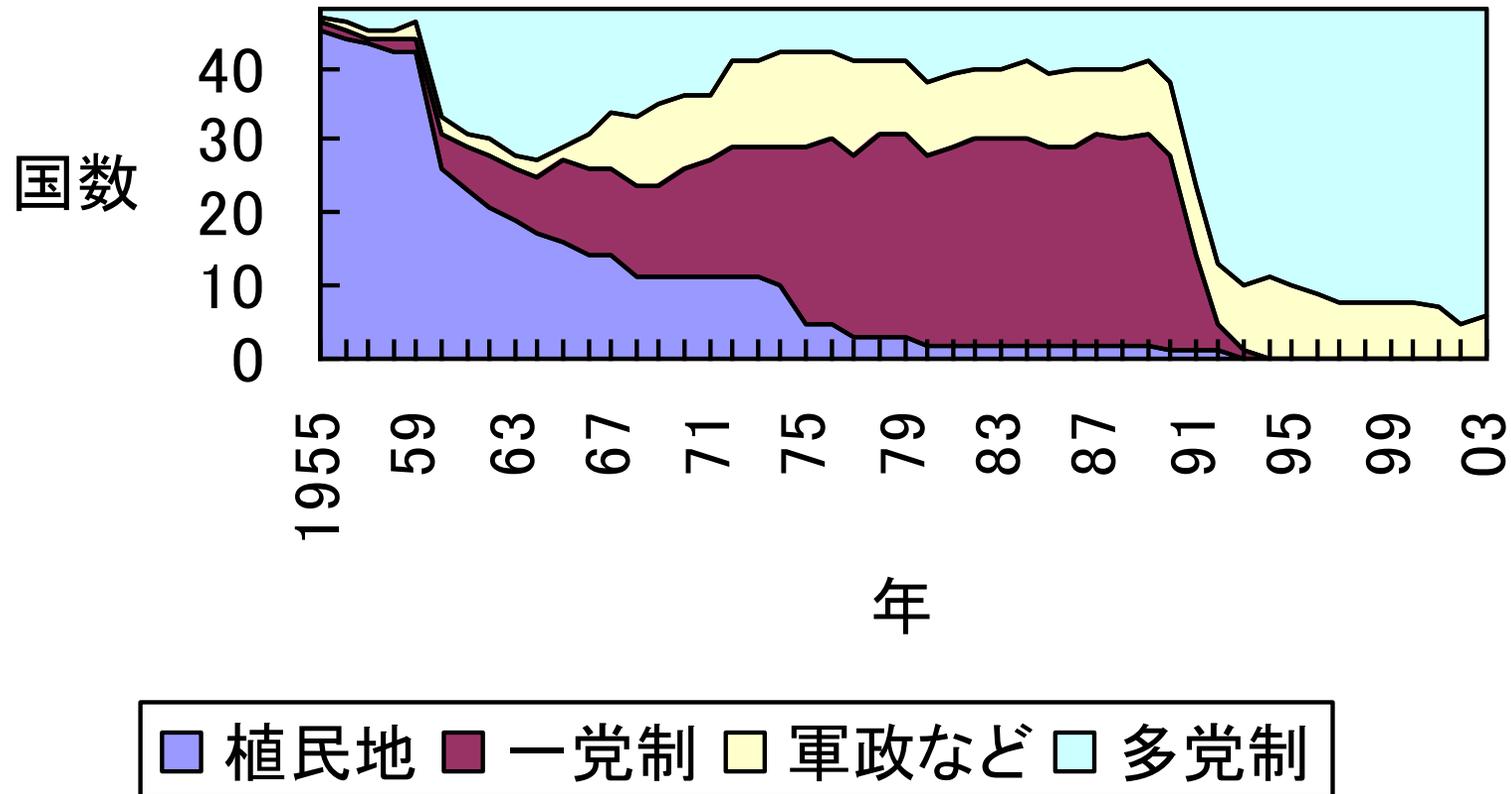
アフリカ諸国の一人あたりGDP推移 (1965-2008年 USドル 2000年実質値)



出所) World Bank, *World Development Indicators*. から武内作成。

冷戦後の急激な民主化

第1図 アフリカ諸国の政治体制の変化



紛争を解決し、平和を達成することができるのか？

- JICA研究所での仕事(2009-2012)
- 取り組みは、1990年代以来、活発に行われてきた。
 - 国連
 - 開発援助機関
 - NGO
- 様々な取り組み
 - PKO(平和維持活動)、人道支援活動、開発援助を通じた支援
- 平和構築
 - 「紛争が終わろうとする時に平和の基盤となるものを再構成し、これら基盤のうえに単なる戦争の不在以上の何かを構築する諸手段を提供するための活動」(国連『ブラヒミ・レポート』2000年)

「国造り」という発想

- 紛争の背景に国家の問題
 - 紛争を起こさない国家を創るには？ → 「国家建設」(Statebuilding)という課題
 - 国際社会が積極的に関与
- 元戦闘員を市民の暮らしに戻す
 - DDR(武装解除、動員解除、再統合)
- 軍・警察が人々に信頼されるようにする
 - SSR(治安部門改革): 単なる軍事援助ではなく、民主的な組織づくり
- 過去の克服に取り組む
 - 真実和解委員会

課題は多い

- 国際社会が主導して、国造りを進めるという矛盾
 - 内戦、戦争を繰り返して国をつくったヨーロッパ諸国や日本
- 放置できない
 - 人道的、倫理的に
 - 国際安全保障
- ジレンマの中で取り組んでいくしかない。

おわりに

- 紛争と平和の問題に確たる答えはない。
- それでも、魅力的なアフリカ。
- 人々の日々の営みから、答えを探していけないか。

